



第 705 号
発行人●豊丘村公民館 館長 原 国人
編集人●長野県下伊那郡 豊丘村公民館報 編集委員会
0265-35-9066
印刷所●龍共印刷株式会社

私たちの村
(11月1日現在 ※外国人を含む)
男 3,332人
女 3,368人
総人口 6,700人
世帯数 2,161戸

新たな成長
エンジェル☆ファイターズ
代表 松下舞莉

私達エンジェル☆ファイターズは、保育園生から中学生の幅広い年齢で活動しており、とよまつに向けて

週一回練習してきました。練習中は自由でマイペースな子ども達でしたが、いざ本番になると、恥ずかしがらず自分らしさを出せて、楽しく表現ができてすごく成長したなあーと思いました。発表が終わって、子どもの清々



フラ・プルメリア

フラ・プルメリアは、いつまでも楽しく、元気でいられるようにと始め、十一年となります。

とよおかまつり、敬老会、はつらつ、はやしの杜等、活動させて頂き、訪問先で

フラ・プルメリア
南市場 田平由美子

とよまつ会場

第三十二回とよおかまつりが十一月九日・十日に開催されました。暖かな陽気の中、駐車場が午前中に満車になるほどに多くの方で賑わいました。公民館登録グループは、とよまつステージ・ゆめあるてステージそれぞれで日頃の練習の成果を発揮しました。

共に手を動かし笑顔をくれると、嬉しく、感動します。特にとよおかまつりは、他町村からも注目されていて、衣装・化粧・微笑にも力が入り、皆様の前で踊るといふこの幸せがずっと続きますように、と毎週はつらつを借りて、十一名の踊りが練習に励んでいます。今年も土曜のお昼頃、披露させて頂きました。ありがとうございました。



ハーモニカを吹く会



ウクレレ・ヒラ・ハワイアンズ

とよおかまつりに参加して
ハーモニカを吹く会
代表 森田節子

とよおかまつりでの演奏参加は、会が発足して一年足らずの私達にとっては、とても緊張した初舞台でした。

普段は、月二回の練習で、一回は林先生に御指導いただいたのですが、今回の参加の為、十月は毎週土曜日に練習してきました。全員シニア年代で、青春時代を思い出して、季節の歌なつメロなどを練習しています。曲が吹けるようになると、自己満足か、うれしくなります。

ポケットに入る手軽な楽器として、十四名の仲間と

ゆめあるて会場

しい表情が忘れられませんか。とよまつといったイベントがあるからこそ保育園や学校で見られない成長ができました。このようないイベントをもっと増やせるといいと思います。とよまつ、ありがとうございます！



エンジェル☆ファイターズ

とよおかまつりのステージ発表に参加して
ウクレレ・ヒラ・ハワイアンズ
代表 小杉山勝彦

交流を深め、練習に励みたいと思います。

伊那谷に越えてきて一年半が経つ。ようやく自分のペースで生活ができるようになり、春先から草木染を始めた。都会の反動、自然への憧れ、どちらともなくうまれる感情が創作意欲をかき立てている。草木染をしていて感じるのは自然の流れた。花には時期があり、先日までは緑だった野原が花をつけ、時が過ぎれば散ってしまう。また色や濃淡、定着具合など思い通りにならないのもおもしろい。「思い通りにならないのが人生さ」映画『ローマの休日』の中に出てくる台詞だ。草木染のみならず、人生を含めた多くのものの中で思い通りになることは少ない。それでも人はインターネットやスマートフォンなどITの発展とともに物事を思い通りにしようとする傾向が強くなっているように感じる。物事を自分たちの手の中に収め、コントロール下に置く。果たしてすべてがそううまくいくのだろうか。それに反するように人間の範疇を超えた大規模な災害が増えてきたようにも感じる。そして、人生を思い通りにできる未来が訪れたとしてそれは幸せなのだろうか。陶芸の先生が「土はどうにでもなる。だけれどどうにかするのには難しい」と仰っていた。この言葉を聞いたとき、土だけの話ではないと感じた。何事もどうにでもなる。だけれどどうにかするのは難しい。

(津田孝平)

史学会、国宝土偶展を見学

資料館主任 唐澤武彦

豊丘村公民館・豊丘史学会共催の「国宝土偶展」見学会が十月三十一日に行われました。参加者は村内から希望された五三名。秋晴れの好天に恵まれ、色づき始めた木々をマイクロバスの車窓から見ながら、千曲市から小布施を巡る充実した一日を過ごしてきました。途中、千曲川の氾濫で被害を受けた状況も散見することができ、一同心を痛める場面もありました。

さて、この展覧会ですが、千曲市にある県立歴史館が開館二五周年記念として特別に企画したものです。現在

国宝に指定されている土偶は次にあげるたつたの五体だけです。「縄文のビーナス（長野県茅野市）」「縄文の女神（山形県舟形町）」「中空土偶茅空（北海道函館市）」「合掌土偶（青森県八戸市）」「仮面の女神（長野県茅野市）」。

これら五体全てが一室に会する展覧会が地方で開催されるのは今回が初めてです。こんなチャンスは二度とないとの思いから、史学会では例年春に行なっている飯伊地域の史跡巡りを国宝土偶の見学会に振り替えて、この四月より計画を進めて参りました。ちょうど

柿の時期と重なるので参加者が少ないのではと心配したのですが、マイクロバス二台が希望者で満杯となる人気に係一同まずは胸をなでおろしたところです。

当日は、普通日の早朝ということもあり、歴史館の入館者も比較的少なく、国宝と出会うには最高の環境でした。私たちは、国宝五体だけが並ぶ特別の展示室に入り、静かな雰囲気の中、ある種の緊張感をもって心行くまで土偶を鑑賞することができました。

県立歴史館で至福の時を過ごした私たちは、すぐ隣にある森將軍塚古墳に登り、古代人の築いた壮大な古墳と素晴らしい眺望を体感し、小布施町に向かいました。桜井甘精堂「北斎亭」で昼食を摂り、小布施の自由散策を楽しんだ後、三時過ぎ、

となつては検証できないようですがバックウォーター現象が起こったことも考えられます。

ラを感じたのですが、「縄文の女神」の前でその場に居合わせた女性の「エジプトの影響があるのかしら」というつぶやきにハッとさせられました。確かに、よく見るとスフィンクスやツタンカーメンから受ける印象に似通った何かが感じられます。考えてみれば、これらの土偶が作られた時期には既に四大文明が生まれていたわけです。土偶を見るグローバルな視点を教えていただきました。

豊丘への帰途に就きました。充実の一日に感謝です。ちなみに、国宝土偶展に引き続き歴史館で開催される「中部高地の土偶」展には、豊丘からも二体の土偶が展示されます。期間は来年の二月二日（日）までです。是非ご覧ください。



シリーズ「元気な高齢者」⑥1 教会が導いた 健康な体に感謝

安田かをるさん
九十一歳
中芝在住

米、りんご、柿を主とする農家で、昭和三年に木門の唐澤家で六人きょうだい（男三人、女三人）の総領として生まれました。近所には同年代の友達が多く、学校まで仲良く連れだつて通ったことが昨日のように思い出される。昨年完成した道の駅からは、当時の通学路が良く見え本当に懐かしい。

米、りんご、柿を主とする農家で、昭和三年に木門の唐澤家で六人きょうだい（男三人、女三人）の総領として生まれました。近所には同年代の友達が多く、学校まで仲良く連れだつて通ったことが昨日のように思い出される。昨年完成した道の駅からは、当時の通学路が良く見え本当に懐かしい。

退職後は奈良県の天理教の修養科に入った。祖父が天理教の河野地区分教会（龍河）の要職にあつたこと縁によるものであつた。修養科に居たのは三ヶ月間と短期間であつたが、全国から集まつた多くの人と寝食

を共にし、かけがいの無い友達ができた。帰郷して直ぐに安田家へ嫁いだ。母親が龍河から嫁いで来たという縁によるものであつた。夫となる辰夫さんが戦地から帰還した直後に先妻が亡くなり、後妻として入つたのである。かをるさんは、当時天理教に深く帰依していたが、辰夫さんはそれを快く思っていなかったため、暫くは気まずい雰囲気漂っていた。辰夫さんは農業の傍ら、人に頼まれて山仕事に出て家計を支えた。しかし昭和四十五年の大阪万博の観光から帰つて以降、急に体調を崩し自宅にいる時間が増えたのを機に、農業（特に胡瓜栽培）に集中した。しかし中気を病み暫く療養していたが、平成十四年に八十六歳で亡くなった。結婚して直ぐに家の近くの板金加工会社へ勤めていたかをるさんは、一家の屋台骨となつて懸命に働いた。結局そこには約十五年間勤めた。重い病氣はしたことが無く、入院経歴も無い。これは教会のお陰だとしみじみと感じている。それでも二

ヶ月に一度は医者に通い健康チェックを欠かさない。食べ物には若い頃から嫌いな肉以外は美味しく頂ける。ただ足腰が弱つたのは確かで、外出は減り現在は家回りの草取りをする程度である。元来、物事にうまくいかない性格で、苦勞を苦勞と感じないということも健康の一因かなと思う。また視力聴力は問題はなく、新聞には毎日目を通すし、テレビはニュースを主体として世の中の動きに関心を持つ。最近の暗澹たる事件・出来事を嘆かずはいられない。特別な趣味はないが、辰夫さんが亡くなってから始めた編み物は、一人でこつこつと出来るので唯一と言えるほどの楽しみだ。また会社勤めしていた頃に、社員旅行で国内を見物できたことが本当に懐かしい思い出であり宝物になっている。現在、昔の仲間がほとんど亡くなり寂しい限りだが、弟妹の四人が健在で、時々集まる時間は何よりの憩いの場だ。現在は長男夫婦との三人暮らし。毎日の食生活が生活の拠り所である。

文責 桐崎 長一

蛇川下流域三六災害体験談(7) 蛇川に人が流されそうになったし、下流で水が流れにくくなった

聞き手 原 章 (古畑)



今の蛇川が天竜川に合流するところ

「三六災の時まで、蛇川は天竜川に合流する辺りで今よりも上流側に向いていた。そのため蛇川の水が天竜川へ流れにくくなった。」（今

豪雨の時には、どここの川も水が満杯となり行き場を失い、川の水が低いところや堤防の弱いところなどからあふれていくことになりました。ちなみに、三六災の時には、林の最下流「はつらつ」の近くも水があふれ、浸水被害が起つています。

公民館登録グループ
活動紹介

第21回

ともの写真クラブ

下市場 筒井 順治

ともの写真クラブは、平成十年三月、公民館第四分館役員有志六名で発足しました。早いもので、もう二十一年になります。発足してすぐ公民館グループに登録して頂き、年に数回の例会には、伴野勤労者福祉センターで、乾物をつまみに缶ビール片手に、写真談議で盛り上がり、豊丘村公民館文化祭に出展させて頂くようになりました。

今では、村内各地から男性二十三名、女性三名、計二十六名の大所帯になりました。上は七十代後半、下は三十代と年齢も幅広く、和気あいあいとした良き仲間です。この写真クラブが他の写真クラブと少し違うのは、写真漬けではなく、仲間と年数回、居酒屋さんで一杯が、どちらかというと優先で、飲み交わし、親睦を図っています。一年間個人で

撮った写真三枚以上を、文化祭に出展する事を目標に頑張っています。平成十九年から、豊丘南小学校写真クラブの皆さんと、交流させて頂き、年五回の写真教室には、数名で四年生から六年生の生徒さんに写真の指導をさせて頂いています。



この様に、気取らない気楽な写真クラブです。

区民が元気に運動会

和気あいあい「佐原地区運動会」

第六分館長 小池 光好

十月十三日（日）に佐原地区運動会が佐原区民会館体育館で行われました。当日は晴天でしたが、前日

関東地方を直撃した台風十九号の影響により、赤松林運動公園グラウンドの状態が悪く、また、準備もできないということで、床を張

り替えるなど新装成った体育館で行うこととなりました。運動会は九時に開会。開

会式、続く準備体操の後、自治会対抗の「人間ストラックアウト」から競技に入

りました。保育園以下による「宝ひろい」では、歩き始めて間も

ない幼児も参加され、また、途中に置いてあるお菓子の入った宝を引

かずに通り過ぎ、泣き出す子どももいて、微笑ましい光

景が見られました。パン食の競争はほぼ全員が参加。皆我を忘れて一心不乱に興

じていました。私は今回の運動会で進行係の係長を努めさせて頂きました。進行係は、各種目毎に参加選

伴野区民運動会

第四分館体育部 原 大地

十月十三日に伴野区民運動会が開催されました。今年

は台風十九号の接近に伴い、一日順延しての開催となりました。台風が過ぎ

去ったこともあり、朝から快晴に恵まれ、公民館からの開催の一報を受けて役員達が急ぎ準備を行いました。多くの皆さんの協力があり時間通りの開催ができたことを嬉しく思います。

私は今回の運動会で進行係の係長を努めさせて頂きました。進行係は、各種目毎に参加選



まうという珍事もありました。正午前、自治会対抗四種目、個人競技六種目を、和

気あいあいのうちに終了し、閉会となりました。幼児から年配の方まで参加され、世代を超えた楽しい運動会となりました。

俳句 短歌

運動会自体は年々、参加者が少なくなってきたようにも感じます。様々な原因があるとは思いますが、少し寂しい気持ちです。それでも自治会対抗種目は全員で盛り上がり、小学生からお年寄りまでが賑やかに過ごせる時間をこれからも大切にしたいと思っています。

焼きあげてさんま装うや赤絵皿
秋天に下り舟の老い笑み豊か
柿の実の色づき始む風の色
運動会場所とりシート賑わえり
花梨の実たわわに実る縁起の木
秋防災訓練なごむ握飯
紅白の秋明菊や米寿使者
猪除けの灯をつけ山に守るもの
大笑ひの実柘榴一つまるびをり
谷風の抜けゆく城址秋灯下
夜通しの天龍荒ぶ秋嵐
松源寺の鐘楼映ゆる柿暖簾
雨しるき漆紅葉や落城址
吊し柿一つまるびで落城址
亀之丞遊びし庭よ帰り花

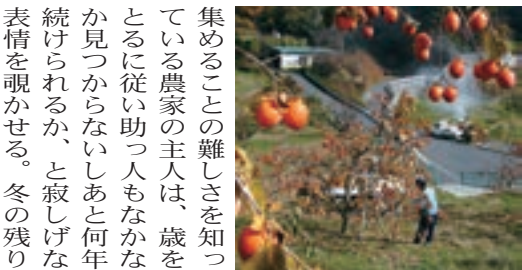
ぼくらぼくら記

第29記

段丘を褐色に染めて
実る秋の風物詩



むきから乾燥に至るまで、製品になる数はそれほど多くはなかったものだ。一つの頃からだるう柿の実る景色を追い求めながら、村中をさらに下伊那いち円を歩いたことも。あの赤く染まった色に愛着を見せるようになったのはずつと過去からのフィルムが物語ってくれる。



集めることの難しさを知っている農家の主人は、歳をとるに従い助っ人もなかなか見つからないしあと何年続けられるか、と寂しげな表情を覗かせる。冬の残り柿も風情があるのだが…。

写真と文／宮下正弘

～シリーズ～ 豊丘の自然

No.191

ゴマダラカミキリ
(カミキリムシ科)



ゴマダラカミキリは、ごく普通に見ることのできる昆虫です。でも、地球温暖化（気候変動）が問題視されて久しいが、人間とそれ以外の生物の決定的まちがいを「適応」と「対応（対策）」で考えてみたい。「適応」の説明の項に「生物の個体またはその器官の構造やはたらきが、外界の変化

に応じて変化すること」とあるが、「対応（対策）」には、この内容はない（少なくとも今の「対応（対策）」には）。ゴマダラカミキリで言えば、外界の変化に対応する唯一の方法は「適応」しかないのだ。このあたり前のことを、人間は理解し、解決する「対応（対策）」を考えなければならぬと思うのだが、どうだろうか。

(山田 拓)

河岸段丘に秋が到来すると活気づいてくるのが、辺り一面が褐色に染まる柿の実の彩りだ。たわわに実った市田柿は収穫の時を迎えはじめる。どこの農家も人手が足りないし、夜遅くまで柿の皮むきに大忙しの日々が続く。ブランド化したことで価値も上がり、出荷に際しても衛生管理が厳しくなってきた。昔のように手や簡易な機器による皮

はやし柿の杜の施設も以前は柿畑だった



はやし柿の杜の施設も以前は柿畑だった

（とよおか短歌会）

杖引きて妻と石段支え合い結願の寺に般若心経納める

松下 泰見

オニヤンマ玄関先に飛んで来て「捕つては駄目よ」と曾孫に声掛く

壬生 千春

二十の孫娘彼氏できたとうるむ目に母は戸惑いまぶしげに見る

福澤貴美恵

わらべ歌いつしか消えぬ幼な日の夕焼け小焼け我が影長し

毛涯百合子

手をつなぎ夕焼けの農道散歩する孫の声はずむ雲の万化に

筒井 恵子

つね日頃文通相手と諍ずれど番地漏らして迷惑掛ける

大倉 知江

終活を考える齢となりたるに物ふえてゆく思いちぐはぐ

大原真由美

秋深み桃狩りいも掘りリング狩り観光バスがマルシェに並ぶ

松尾ヒサコ

近江より土産の鮎ずし家内みな箸付けずして猫も跨ぎぬ

福澤 亀人

〈豊丘村川柳クラブ豊柳会〉

▼課題「帯」 福沢勝美 選

万札の帯封はずす夢を見る 久保ひろし

着物きて優雅さ決める帯をしめ 林 もも子

襷にも帯にもなれずひた走る 原 美風

軸吟…酒気帯びで築いた地位を棒に振り

▼課題「水」 互 選

水運ぶ萎れる野菜息をふく 安田 喜子

海水の温度変化でサンマ無し 山本 義彦

運は天水の流れに身をまかせ 西元 峯子

お互いに水かけ論でちあかず 福沢 勝美

▼自由吟 久保ひろし 選

今日迄だ両手一杯買い求め 市沢 照子

筋書きのない人生というドラマ 桃沢 健介

軸吟…政治家は五〇年後は見えぬらし